

動物園で暮らすツシマヤマネコたち

—野生動物保全のために動物園ができること—

坂本英房

(京都市動物園副園長)

京都市動物園の正面エントランスを入ってすぐにある施設で展示しているツシマヤマネコは、国内では長崎県対馬だけに生息する野生のネコで、哺乳類では、絶滅に最も近い動物の1つです。東南アジアから中国、朝鮮半島に広く分布するベンガルヤマネコの亜種とされ、約10万年前に当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられています。生息に適した環境の減少や交通事故などで生息数が減少し、絶滅の恐れのある野生動物種として1971年に国の天然記念物に、1994年に絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき国内希少野生動物種に指定されました。環境省レッドリスト2017では、最も絶滅の恐れの高い絶滅危惧IA類に分類されています。2010年代前半の調査によれば、対馬には多くて100頭、少なく見積もるとわずか70頭といわれています。

環境省が中心になって進めているツシマヤマネコの保護増殖事業、つまりツシマヤマネコを絶滅から守るためには、対馬の自然の中で安定して暮らせるように環境を整えて数を増やす「生息域内保全」と、動物園など対馬以外の安全な施設で育てて増やす「生息域外保全」の2つの方法があります。

対馬では、対馬野生生物保護センターが拠点となって、生息状況や生態の調査・研究、保護されたヤマネコを野生に戻すための治療やリハビリ、地元ボランティアや企業と協力し、ツシマヤマネコと共生する地域社会づくりなどヤマネコが暮らしやすい環境づくりの取組が行われています。

動物園では、公益社団法人日本動物園水族館協会の生物多様性委員会を中心に本園を含め8つの動物園が協力して2つのことに取り組んでいます。1つは動物園で数をふやすことで、動物園で生まれたツシマヤマネコを、対馬の環境が整い自然の状態ですべて安定して暮らしていけるようになったときに、野生復帰個体として対馬に送り出すことを期待されています。また、複数の動物園で飼育することは、生息地で災害や感染症の発生など大きな問題が生じたときに、絶滅を防ぐ目的もあります。もう1つはツシマヤマネコのことを、動物園を訪れる多くの人に知ってもらうことです。ほぼ民有地で暮らしているツシマヤマネコを守るためには、多くのみなさんの理解と協力が必要です。ツシマヤマネコのおかれている厳しい現状や、対馬のすばらしい自然環境などについて知ってもらうためには、実際にツシマヤマネコを見て、身近に感じてもらう必要があります。多くの来園者が訪れる動物園でツシマヤマネコのことや、絶滅から守るための取組を伝えることは、とても大切なことだと考えています。そのため、2012年にミヤコが京都市動物園にやってきてから、毎年、秋にやまねこ博覧会を開催しています。

やまねこ博覧会では、来園者にツシマヤマネコの魅力や絶滅の恐れがあること、そしてそのためどのような取組をしているのかを知ってもらうために、対馬で保全活動に取り組んでいる団体にも参加してもらい、講演会やワークショップ、クイズラリーなどさまざまな催しを行っています。今年も7回目のやまねこ博覧会を10月に開催します。

京都市動物園には、4頭のツシマヤマネコが暮らしています。いずれも環境省から預かっているもので、皆さんに御覧いただけるのは16歳のミヤコおばあちゃん。昨年本園で生まれたオスのユウキとメスのユメをはじめ3頭は、非公開の繁殖施設にいます。今年度は新たな組合せでの繁殖を目指します。

動物園で生まれたツシマヤマネコたちが野生復帰し、対馬の個体群を支える日が来ることを願っています。

京都国立近代美術館賛助会員

特別会員 **木下グループ** | **FUJIFILM**

一般会員 **ワコール** | **中央信用金庫** | **KYOCERA**

当館は上記の賛助会員の皆様からご支援、ご支持をいただいております。

2018年11月12日 発行 視る495号

編集・発行 | 京都国立近代美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 電話 | (075)761-4111(代表)

編集協力 | 株式会社福本事務所

組版フォーマット設計・表紙デザイン | 大西正一 印刷 | 野崎印刷紙業株式会社

表紙 | 幸野椋嶺《春秋蛙合戦図》1864年頃

京都国立近代美術館蔵